

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野
平成28年度採択テーマ 中間評価結果

(中間評価2年目)

テーマ名および概要		提案者名	評価	中間評価コメント
テーマ	扇状地河川富士川における伏流水の実態の解明	山梨大学 石平 博	a	観測と解析に基づいて扇状地の水収支を把握し、一定の進捗を得ていることから、研究が順調に実施されており、引き続き研究を推進する。
概要	洪水対策のための河道掘削工事が計画されている富士川流域成田地区を対象とし、伏流水の寄与域を高精度で把握できる安定同位体トレーサーを用いた伏流水の流動状況の解明や、滞留時間を推定できる放射性同位体トレーサー(トリチウム)の観測を行い、さらに流量推定のための水文モデルの構築を行うことで、扇状地河川富士川における伏流水と地下水の実態を解明する。			
テーマ	黒部川における安定した石礫交互砂州河道の回復技術に関する研究	中央大学 後藤 岳久	a	河道の回復技術の効果を的確に評価する高度な解析モデルを構築することにより研究が順調に実施されており、引き続き研究を推進する。
概要	本研究では、滞筋の直線化や河床低下の進行した黒部川の交互砂州区間について、交互砂州河道を回復させ、これを長期に亘って維持出来る技術を提案する。愛本床止め下流に2基の巨石付き盛土砂州を設置することにより、低水路の蛇行線形を回復し、既設縦工群の機能を回復させる。これらの設置効果について、モニタリングや石礫河川の長期河床変動計算により検証する。下流河道の河床低下を緩和するため、愛本堰堤の通過土砂量を増加させる石置みの排砂水路の設計法について、数値移動床水路を用いて検討する。			
テーマ	シラス堤防の浸透および越水に対する安定性に関する検討	鹿児島大学 酒匂 一成	a	今まで明らかにされていなかったシラス堤防の地盤工学的特性を詳細に調べており、堤防管理に有用な知見を得ていることから、研究が順調に実施されており、引き続き研究を推進する。
概要	本研究では、シラス堤防の強化策の効果を検証するために必要な知見を得るための研究を実施している。今年度は、過去の浸透に対する堤防の安全照査結果に基づく、安全性が低いと判断される堤防の特徴、室内土槽実験によるドレーン工周辺の間隙水の浸透挙動などの把握、ドレーン工や遮水シートが設置された堤防の観測結果の分析による強化策の効果、浸透に対する堤防の安定性照査に必要な土質データの蓄積や解析手法の提案、肝属川水系における河道内水文特性量評価のためのパラメータ設定に関する検討などを実施した。これらの研究成果による知見をより効果的なシラス堤防強化策の提案に繋げ、シラス堤防の質の向上や「シラス地帯の河川・道路土工指針(案)」へ知見を反映するための基礎資料の作成を目標とする。			
テーマ	生物化学の手法を活用した掘削土・刈草・除伐材の資源化技術開発	石巻専修大学 玉置 仁	a	掘削土の改良に関する新たな技術提案として河川への適用を期待できることから、研究が順調に実施されており、引き続き研究を推進する。
概要	河道掘削により発生した掘削土、維持管理で発生した刈草・除伐材の処理費軽減のため、掘削土・刈草・除伐材とを混合し、生物化学的手法を用いて、資源としての園芸用土(以下、作土)に再生させる手法を開発することを目的とする。掘削土の土壌構造に基づく改質点の抽出、含水比を指標とした効果的な掘削土の細粒化処理手法、粒度調整された掘削土と除伐材チップ等とを混合させた土壌に海藻由来の粘質多糖類添加や土壌微生物などの植種による作土の改質効果を疑似現場実験と現地検証実験において明らかにする。			

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野
平成28年度採択テーマ 中間評価結果

(中間評価2年目)

テーマ名および概要		提案者名	評価	中間評価コメント
テーマ	“多列砂州河道の特徴を踏まえた河道維持管理”に向けた検討	名城大学 溝口 敦子	a	複雑な河川地形の形成機構を詳細な観測に基づいて明らかにし、河川管理に有用な知見を得ていることから、研究が順調に実施されており、引き続き研究を推進する。
概要	本研究は、網状流路を有する大井川を例に河床・流路変動の特徴を捉え、河床形態が生み出す横断方向の水位差など平水時の水理環境、流路の動き、植生面積の消失特性など河道管理に生かせる知見を得るものである。今年度は、高度化した計測技術を利用して、中小規模の出水の役割、大出水時の河床変動を捉えることで創出される網状流路の特徴によって引き起こされる管理上の注意点や、河床変動解析の精度向上に向けた粒度分布把握方法などを検討した。			

評価の凡例

- a: 研究が順調に実施されており、引き続き研究を推進する。
- b: 指摘事項に留意の上、引き続き研究を推進する。(指摘事項あり)
- c: 指摘事項を踏まえ研究計画を修正の上、研究を推進する。(指摘事項、条件付き)
- d: 現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難であるため、研究を終了する。